

デジタル実装型 交付金の具体的使途や実施体制、効果検証の結果等に関する公表（2026年度公表）

交付金予算年度	令和6年度補正新しい地方経済・生活環境創生交付金(デジタル実装型TYPE1)	
交付対象事業名称	文化財3D展示機会創出事業	
事業概要	静岡県内の歴史文化資源である文化財の3次元データ（文化財3D）について、WEB公開による情報発信とは別に、その利点を活かしたリアル空間とサイバー空間での展示機会を実装する。この実装により、県民等に文化財3Dにふれてもらう機会を創出し、保存上公開制約もある文化財の価値や魅力への理解を深め、地域の誇りと文化財の未来への継承につなげる。	

a：交付金の具体的使途

経費項目	金額（単位：千円）
体験イベント開催に伴う講師謝金	57
体験イベント開催に伴う広報の印刷費	42
体験イベント開催に伴う消耗品費	86
文化財3D施設展示設備整備業務	2,300
文化財3Dメタバース展示整備業務	946
メタバース展示体験イベント開催支援業務	495
経費合計	3,926

b：実施体制

名称（団体・事業者名）	団体・事業者概要	事業における役割
静岡県	県（事業主体）	立案、実施、統括、管理
株式会社サピア	委託業者	サービス提供（展示設備）
株式会社リプロネクスト	委託業者	サービス提供（メタバース、イベント開催）
静岡県文化財保護審議会	文化財専門家	事業及び実装サービスの評価
県内市町（文化財所管課）	県内市町	3D展示に関する要望・情報提供、協力
県文化財保存協会	県内文化財関係団体	周知、情報提供の協力
県博物館協会	県内文化財関係団体	周知、情報提供の協力
県内文化財関係者（学芸員等）	文化財専門家	体験イベント講師

c：効果検証の結果

c-1 KPIの達成状況

KPI①		種別	単位	性質	基準年度	基準値	
文化財3D施設展示観覧者数		アウトプット	人	増加KPI	2023	1172	
					1年目 目標値	1年目 実績値	達成状況
					1200	1290	達成
					2年目 目標値	2年目 実績値	達成状況
					4800		
					3年目 目標値	3年目 実績値	達成状況
					8400		
基準値なしの理由							
「KPI達成」 の場合	達成のための取組内容や工夫	移動展示設備を、県庁内の県民サービスセンターや県の埋蔵文化財センターに設置することで、県施設利用者に観覧していただくことが出来た。また、2月に開催した体験会においても、特設コーナーを設けることで多くの参加者の方に体験していただくことができた。					
	今後に向けた取組	県施設だけでなく、市町や民間の文化財展示施設に対して、移動展示設備を計画的に貸し出すことで、目標の達成を目指す。また、2026年度は昨年度同様の体験会だけでなく、商業施設で体験イベントを実施することで、普段文化財にふれる機会が少ない方にも、体験できる機会を創出する。					
「KPI未達成」 の場合	達成できなかった理由	選択 (全て)	①：サービス運用期間が短い、もしくは、サービス運用範囲が狭いなど、想定通りのサービスが提供できていないため ②：サービスの認知やサービスへの理解が広がらないなど、利用ニーズが想定を下回っているため ③：サービスの利用を妨げるような、自然災害などの突発的な外部要因が生じたため ④：その他				
		詳細					
	今後に向けた取組						
「KPI未計測」 の場合	計測できなかった理由	選択 (全て)	①サービス実装の遅れにより実装直後であり、事業実施報告提出までにKPIを計測できる状況ではなかったため ②機能的な問題でKPIを測定することができない状況であるため ③自然災害など突発的な外部要因により、予定していた計測が実施できなかったため ④計測機会がなかったため（例：災害発生時にしか計測できないKPIを設定しているが、そもそも災害が発生しておらず、計測機会がなかったなど） ⑤その他				
		詳細					
	今後の計測見込み (当てはまる方を選択)	計測見込みが立っている	計測見込み時期				
		計測見込みが立っていない	見込みが立っていない理由				
今後に向けた取組							
初年度未設定の場合	今後に向けた取組						

KPI②		種別	単位	性質	基準年度	基準値	
文化財3Dメタバース展示アクセス件数		アウトプット	件	増加KPI	2024	660	
					1年目 目標値	1年目 実績値	達成状況
					660	425	未達成
					2年目 目標値	2年目 実績値	達成状況
					2244		
					3年目 目標値	3年目 実績値	達成状況
					3828		
基準値なしの理由							
「KPI達成」 の場合	達成のための取組内容や工夫						
	今後に向けた取組						
「KPI未達成」 の場合	達成できなかった理由	選択 (全て)	①：サービス運用期間が短い、もしくは、サービス運用範囲が狭いなど、想定通りのサービスが提供できていないため				
			✓ ②：サービスの認知やサービスへの理解が広がらないなど、利用ニーズが想定を下回っているため				
	③：サービスの利用を妨げるような、自然災害などの突発的な外部要因が生じたため						
	④：その他						
	詳細	仏像メタバースギャラリーの活用は、2月に開催したメタバース体験会まではチラシや開催施設の広報誌のほか、メタバースを整備した業者に運営業務を委託し、仏像、XRや県内イベント情報関連のインフルエンサーを活用したSNS広告を実施したが、体験会以降は周知活動が鈍化したため、目標を達成することができなかった。					
	今後に向けた取組	仏像メタバースギャラリーの体験会を、移動展示設備の貸出しに合わせて実施する予定である。2025年度は静岡市内のみでの開催となったが、2026年度は県内各地での実施を予定し、今まで仏像メタバースギャラリーにふれたことがない新規利用者を獲得する。また、昨年度の体験会の時の取組で得られた経験と学びを活かし、今後の広報戦略の検討を進める。					
「KPI未計測」 の場合	計測できなかった理由	選択 (全て)	①サービス実装の遅れにより実装直後であり、事業実施報告提出までにKPIを計測できる状況ではなかったため				
			②機能的な問題でKPIを測定することができない状況であるため				
	③自然災害など突発的な外部要因により、予定していた計測が実施できなかったため						
	④計測機会がなかったため（例：災害発生時にしか計測できないKPIを設定しているが、そもそも災害が発生しておらず、計測機会がなかったなど）						
	⑤その他						
	詳細						
	今後の計測見込み (当てはまる方を選択)		計測見込みが立っている	計測見込み時期			
			計測見込みが立っていない	見込みが立っていない理由			
	今後に向けた取組						
初年度未設定の場合	今後に向けた取組						

KPI③		種別	単位	性質	基準年度	基準値	
文化財デジタル情報アクセス件数		アウトプット	件/月	増加KPI	2023	958	
					1年目 目標値	1年目 実績値	達成状況
					1450	8097	達成
					2年目 目標値	2年目 実績値	達成状況
					1600		
					3年目 目標値	3年目 実績値	達成状況
					1600		
基準値なしの理由							
「KPI達成」 の場合	達成のための取組内容や工夫	仏像3D教育コンテンツの改善点等の確認のために、11月に県内中学校でデモ授業を実施した。その際に、デモ授業を受けた生徒達が積極的に文化財ポータルサイトへのアクセスを行った結果、11月のアクセス件数が1万5千件を超えた。その後のアクセス件数は減少したが、2月の体験会開催等の効果により、目標を超えるアクセス数を維持することができた。					
	今後に向けた取組	2026年度における仏像3D教育コンテンツへの持続的なアクセス数を確保するため、公立・私立学校への積極的な周知活動を展開する。また、移動展示設備やメタバースを使った体験会を開催したり、またそれに伴う記者提供を実施したりするなど、目標達成に向けた取組を進める。					
「KPI未達成」 の場合	達成できなかった理由	選択 (全て)	①：サービス運用期間が短い、もしくは、サービス運用範囲が狭いなど、想定通りのサービスが提供できていないため				
			②：サービスの認知やサービスへの理解が広がらないなど、利用ニーズが想定を下回っているため				
	詳細	③：サービスの利用を妨げるような、自然災害などの突発的な外部要因が生じたため					
④：その他							
	今後に向けた取組						
「KPI未計測」 の場合	計測できなかった理由	選択 (全て)	①サービス実装の遅れにより実装直後であり、事業実施報告提出までにKPIを計測できる状況ではなかったため				
			②機能的な問題でKPIを測定することができない状況であるため				
	詳細	③自然災害など突発的な外部要因により、予定していた計測が実施できなかったため					
		④計測機会がなかったため（例：災害発生時にしか計測できないKPIを設定しているが、そもそも災害が発生しておらず、計測機会がなかったなど）					
			⑤その他				
	今後の計測見込み (当てはまる方を選択)		計測見込みが立っている	計測見込み時期			
			計測見込みが立っていない	見込みが立っていない理由			
	今後に向けた取組						
初年度未設定の 場合	今後に向けた取組						

KPI④		種別	単位	性質	基準年度	基準値	
文化財 3 D施設展示の観覧者の満足度		アウトカム	ポイント	増加KPI	なし	なし	
					1年目 目標値	1年目 実績値	達成状況
					2.8	3.8	達成
					2年目 目標値	2年目 実績値	達成状況
					3.5		
					3年目 目標値	3年目 実績値	達成状況
					4.2		
基準値なしの理由		文化財 3 D施設展示に用いる移動展示設備を、令和 7 年度に初めて導入するため。					
「KPI達成」 の場合	達成のための取組内容や工夫	移動展示設備に搭載する仏像 3 D教育コンテンツの作成については、県内の仏像に詳しい文化財関係者（学芸員・教員）にコンテンツ開発に協力いただいた。開発にあたり、月に 1 ～ 2 回ほどのペースでオンラインミーティングを実施し、実際に現場で生徒に授業を行っている学芸員・教員の意見を取り込むことで、満足度の高いコンテンツの制作ができた。					
	今後に向けた取組	今後は、市町や民間の文化財展示施設に対して、移動展示設備の貸出しを行う。貸出先や施設利用者の方にアンケート調査を実施し、様々な意見や改善点を集め、コンテンツの改善を図ることで、より満足度の高いコンテンツにブラッシュアップする。					
「KPI未達成」 の場合	達成できなかった理由	選択 (全て)	①：サービス運用期間が短い、もしくは、サービス運用範囲が狭いなど、想定通りのサービスが提供できていないため				
			②：サービスの認知やサービスへの理解が広がらないなど、利用ニーズが想定を下回っているため				
	③：サービスの利用を妨げるような、自然災害などの突発的な外部要因が生じたため						
	④：その他						
今後に向けた取組							
「KPI未計測」 の場合	計測できなかった理由	選択 (全て)	①サービス実装の遅れにより実装直後であり、事業実施報告提出までにKPIを計測できる状況ではなかったため				
			②機能的な問題でKPIを測定することができない状況であるため				
			③自然災害など突発的な外部要因により、予定していた計測が実施できなかったため				
	④計測機会がなかったため（例：災害発生時にしか計測できないKPIを設定しているが、そもそも災害が発生しておらず、計測機会がなかったなど）						
	⑤その他						
今後の計測見込み (当てはまる方を選択)			計測見込みが立っている	計測見込み時期			
			計測見込みが立っていない	見込みが立っていない理由			
今後に向けた取組							
初年度未設定の場合	今後に向けた取組						

KPI⑤		種別	単位	性質	基準年度	基準値	
文化財 3 Dメタバース展示の観覧者の満足度		アウトカム	ポイント	増加KPI	なし	なし	
					1年目 目標値	1年目 実績値	達成状況
					2.8	3.7	達成
					2年目 目標値	2年目 実績値	達成状況
					3.5		
					3年目 目標値	3年目 実績値	達成状況
基準値なしの理由		文化財 3 Dメタバース展示に用いる仏像メタバースギャラリーを、令和 7 年度に初めて導入するため。					
「KPI達成」 の場合	達成のための取組内容や工夫	仏像メタバースギャラリーの開発において、県内の仏像に精通した文化財関係者（学芸員）の方に協力いただいた。仏像に関する基礎知識やクイズなどの監修をしていただくことで、より正確で、わかりやすい表現にすることができた。					
	今後に向けた取組	仏像メタバースギャラリーの体験会を、移動展示設備の貸出しに合わせて実施する予定である。2025年度は静岡市内のみでの開催となったが、県内各地で実施する予定である。参加者にアンケート調査を取り、様々な意見や改善点を集めながら、より満足度の高いコンテンツに改善していく。					
「KPI未達成」 の場合	達成できなかった理由	選択 (全て)	①：サービス運用期間が短い、もしくは、サービス運用範囲が狭いなど、想定通りのサービスが提供できていないため				
			②：サービスの認知やサービスへの理解が広がらないなど、利用コースが想定を下回っているため				
	詳細	③：サービスの利用を妨げるような、自然災害などの突発的な外部要因が生じたため					
④：その他							
「KPI未計測」 の場合	計測できなかった理由	選択 (全て)	①サービス実装の遅れにより実装直後であり、事業実施報告提出までにKPIを計測できる状況ではなかったため				
			②機能的な問題でKPIを測定することができない状況であるため				
	詳細	③自然災害など突発的な外部要因により、予定していた計測が実施できなかったため					
		④計測機会がなかったため（例：災害発生時にしか計測できないKPIを設定しているが、そもそも災害が発生しておらず、計測機会がなかったなど）					
今後の計測見込み (当てはまる方を選択)			計測見込みが立っている	計測見込み時期			
			計測見込みが立っていない	見込みが立っていない理由			
今後に向けた取組							
初年度未設定の場合	今後に向けた取組						

KPI⑥		種別	単位	性質	基準年度	基準値	
県政世論調査における文化財の認知度		アウトカム	%	増加KPI	2023	73.5	
					1年目 目標値	1年目 実績値	達成状況
					79	78.8	未達成
					2年目 目標値	2年目 実績値	達成状況
					81		
					3年目 目標値	3年目 実績値	達成状況
					82		
基準値なしの理由							
「KPI達成」の場合	達成のための取組内容や工夫						
	今後に向けた取組						
「KPI未達成」の場合	達成できなかった理由	選択(全て)	①：サービス運用期間が短い、もしくは、サービス運用範囲が狭いなど、想定通りのサービスが提供できていないため				
			✓ ②：サービスの認知やサービスへの理解が広がらないなど、利用ニーズが想定を下回っているため				
	詳細	③：サービスの利用を妨げるような、自然災害などの突発的な外部要因が生じたため					
④：その他							
今後に向けた取組		2025年度の実績は、令和7年度の事業実装を控えた5月～6月に実施された県政インターネットモニターアンケートの調査結果によるもので、結果として、認知度は2024年度を上回る形となったが、目標達成には届かなかった。認知経路を見ると、「地域や行政のイベント」、「テレビ、新聞」、「行政や地域の広報物」といった媒体が中心であり、「ホームページ」、「SNS」、「小中学校での授業」の割合は依然として低い傾向にある。今後の情報発信においては、これらの媒体の活用強化が課題と考えられる。					
今後に向けた取組		2026年度の実績は現在集計中であり、本回答作成時点（6月）での大幅な上積みは困難である。しかしながら、前回課題であった「小中学校での授業」については、令和7年度に導入した仏像3D教育コンテンツの活用が有効であると考え。については、庁内関係部署を通じて公立・私立学校への周知を強化するとともに、ポータルサイトおよびSNSを積極的に更新し、県民が文化財に触れる機会を増やすことで、文化財の認知度向上に努める。					
「KPI未計測」の場合	計測できなかった理由	選択(全て)	①サービス実装の遅れにより実装直後であり、事業実施報告提出までにKPIを計測できる状況ではなかったため				
			②機能的な問題でKPIを測定することができない状況であるため				
	詳細	③自然災害など突発的な外部要因により、予定していた計測が実施できなかったため					
		④計測機会がなかったため（例：災害発生時にしか計測できないKPIを設定しているが、そもそも災害が発生しておらず、計測機会がなかったなど）					
今後の計測見込み(当てはまる方を選択)		計測見込みが立っている	計測見込み時期				
		計測見込みが立っていない	見込みが立っていない理由				
今後に向けた取組							
初年度未設定の場合	今後に向けた取組						

c-2 評価の結果と次年度以降に向けた見直し

・推進体制

実際に取り組んだ内容や工夫

担当課が事業を推進するための体制を検討し、個別に参画を調整した。庁内関係課・機関や県文化財保存協会、県博物館協会には、事業計画と求める役割を説明して参画への理解を得た。県内市町には担当課が集まる会議で説明し、具体的な協力等は適時、該当市町と文化財所有者に依頼した。サービス提供には業務委託により専門業者の参画を得た。文化財関係者（学芸員等）の参画も調整し、その役割とした技術支援や指導等のほか、実装サービスの利用・参画促進につながる発信にも寄与することができた。

どのように今後取り組むか

実装した仏像3D教育コンテンツの利用促進に向けて、推進体制を以下の通り整備する。2026年7月（夏休み時期）に義務教育課および私学振興課と連携し、県内小中学校への周知活動を実施する。また、コンテンツ開発に協力いただいた文化財関係者（学芸員・教員）に対しては、授業や出前講座での積極的な活用を促すほか、文化財関係者が集う研修会やネットワーク活動の場において、本コンテンツの広報に協力いただく体制を構築する。移動展示設備の活用については、県内の文化財施設に順次貸し出す予定である（貸出スケジュールは既に調整済み）。貸出期間中に、移動展示設備とメタバースの体験会を開催し、利用者による実際の操作体験を通じた理解促進を図る。

・サービス実装

実際に取り組んだ内容や工夫

事業の立ち上げに当たって、他県の文化財への先端技術の導入状況を、博物館等への訪問及び聞き取りにより把握するとともに、文化財デジタル専門家や庁内でメタバースを既に実装している広報戦略課の意見も得て事業内容を検討した。実装に係る3D展示設備整備等業務委託については、他県から参考となる情報を得て仕様を定めた上で、プロポーザル方式で企画提案を募集し、実現性が高く、効果の高いデジタル情報発信につながる企画を選定した。選定にあたっては、対象となる文化財の専門家と庁内でデジタル情報の扱いに長けた県未来まちづくり室の参加を得て審査した。

どのように今後取り組むか

仏像3D教育コンテンツの利用者拡大を図る。今後は、2026年7月（夏休み時期）に義務教育課および私学振興課と連携し、県内小中学校への周知活動を実施する。また、コンテンツ開発に協力いただいた文化財関係者（学芸員・教員）に対しては、授業や出前講座での積極的な活用を促すとともに、学芸員・教員が集う研修会やネットワーク活動の場において、本コンテンツの広報に協力を依頼する。さらに、利用者に対しアンケート調査を実施し、様々な意見や改善点を集めることで、コンテンツの改善を図る。

・サービス運用

実際に取り組んだ内容や工夫

サービス実装後に、利用者からのアンケート調査や推進メンバーとの打合せを実施することで、課題を把握した。アンケート調査や打合せにおいて質問や利用しづらいと意見のあった箇所について、利用者用のマニュアルを作成し、コンテンツ掲載ページに掲載することで、利用者が問い合わせることなく、気軽に利用できる環境を提供できた。また、マニュアルだけでは解決しない場合、教育コンテンツに限っては、事業担当課の職員が学校等に直接訪問し、教員に利用方法のレクチャーをすることとしている。

どのように今後取り組むか

仏像メタバースギャラリーの利用者の拡大を図る。拡大に当たっては、仏像3D教育コンテンツを搭載した移動展示設備の貸出しを、市町や民間の文化財展示施設に対して行うが、その貸出しに合わせて、県内数カ所で10月～2月にかけて、仏像メタバースギャラリーの体験会を実施する。昨年度は静岡市内のみの開催だったが、県内各地で開催することで、昨年度の体験会に参加できなかった地域の方にも、メタバースにふれる機会を創出する。また、10～11月に商業施設におけるイベントに、メタバース体験ブースを出展することで、文化財にふれる機会が少ない層に対しても、文化財にふれる機会を創出する。

・周知・広報

実際に取り組んだ内容や工夫

4月に県内市町文化財所管課長を集めた会議で事業計画を周知したほか、関係者との調整を兼ねて事業計画を周知した。メタバースの開設に際しては、報道提供を行った。2月の体験会においてはチラシや開催施設の広報誌のほか、メタバースを整備した業者に運営業務を委託し、仏像、X Rや県内イベント情報関連のインフルエンサーを活用したSNS広告を実施することで、普段は文化財にふれない方にも体験会に参加いただくことができた。

どのように今後取り組むか

仏像3D教育コンテンツについては、2026年5月にPR TIMESに掲載したり、県内教育関係者向けの情報サイトに掲載する等、広報活動を実施した。今後は7月（夏休み時期）に義務教育課および私学振興課と連携し、県内小中学校への周知活動を実施する。また、コンテンツ開発に協力いただいた文化財関係者（学芸員・教員）に対しては、授業や出前講座での積極的な活用を促すとともに、学芸員・教員が集う研修会やネットワーク活動の場において、本コンテンツの広報に協力を依頼する。

・評価・改善

実際に取り組んだ内容や工夫

1月に、県民向けに開催した3D体験会においても、仏像メタバースギャラリーや仏像3D教育コンテンツをアンケート調査を実施して、改善点などの意見を聴取し、修正を行った。また3月には、実装したサービスの客観的な評価と改善に向けた意見を聴取するため、静岡県における文化財の保存・活用に関する事項を外部有識者で調査審議する「静岡県文化財保護審議会」において、事業の説明を行い、説明後には仏像3D教育コンテンツを体験していただき、その上で評価や意見をいただいた。

どのように今後取り組むか

実装したサービスについて、静岡県文化財保護審議会や作成に協力いただいた文化財関係者（学芸員・教員）の利用による意見や満足度は確認が出来たが、県庁内においてはアンケート調査を実施することが出来なかった。2026年度には、教育、デジタルや広報分野など特定の課・機関を対象に所管業務との連携の可能性や効果について協議した上で意見聴取を行うことで、改善に向けた評価・意見の確実な把握を図る。また、市町や民間の文化財展示施設に移動展示設備を貸し出すので、市町等からも実際に展示した感想を踏まえ、改善点等をフィードバックしてもらう。